

令和4年度 高岡市総合教育会議 会議録

I 日時 令和5年3月20日(月)午後3時30分～4時33分

II 場所 高岡市役所3階 庁議室

III 出席者 高岡市長 角田 悠紀
高岡市教育委員会
教育長 近藤 智久
教育委員 長尾 順子
教育委員 森 美和
教育委員 土田 一清
教育委員 成瀬 隆倫

事務局関係

総務部

総務課長 長谷川 聡

総務課副課長 釣 和洋

教育委員会事務局

教育次長 杉森 芳昭

教育次長・学校教育課長 岩田 正弘

教育総務課長 津幡 佳成

生涯学習・スポーツ課長 上田 浩樹

教育総務課副課長 水上 暁

生涯学習・スポーツ課係長 石井 圭

IV 傍聴者 0名

V 協議の概要

1 開会

- ・市長あいさつ

2 協議事項

- ・ 第2期高岡市スポーツ推進プランの策定について

【長尾委員】

スポーツの推進を図るためには、富山県と連携して取り組んでいく必要があると考える。

【事務局】

県で開催している富山マラソンや富山湾岸サイクリングなどのイベントに市も実行委員会の一員として加わっている。これからも県と連携した取り組みを進めていきたい。

【市長】

既存のイベントに対する本市の対応だけでなく、県のスポーツ担当課との情報共有もしっかり行い、連携して取り組んでいただきたい。

【成瀬委員】

御旅屋セリオに Takaoka ePark があるが、スポーツ推進プランに e スポーツを位置づけ、地域の活性化につなげてはどうか。

【市長】

新年度予算では、高齢者の通いの場において e スポーツを実施することとしている。また、e スポーツは健康づくり面でも重要な観点である。今回のスポーツ推進プランに e スポーツは入っていないが、今後、実績を積み上げながら、例えば、令和9年度の計画の見直し際には、e スポーツを取り入れるなど、高岡型のスポーツ推進を検討していく必要がある。

【土田委員】

高岡商業高校が5年連続で甲子園に出場しているが、このように強くなったのは、大学の強いチームと練習を一緒にしているからである。小・中学校においても、高校の強いチームと一緒に合同練習ができるようになればより強くなると思う。

また、強いアスリートを作るために、指導者や生徒がメンタルトレーニング、コンディショニングを整える指導、ストレングスの3つを柱として取り組んだらよいと思うので参考にしていきたい。

【市長】

小中高の合同練習は、県立高校が関係することもあり、先ほど意見のあった県と連携をしていくことで可能となることもある。また、地元の高校への進学にもつながるという視点もあるので、これらのことを踏まえ、模索していくことが必要である。

トップアスリートを育成していくには、技術面だけでなく、メンタルトレーニングも重要な視点である。メンタルトレーニングの講習は県で15市町村合同でやっていたと記憶しているが、県に対して、各市で講習会を行うよう要請したり、市独自で取り組む方法も検討していきたい。

【森委員】

スポーツは人生をより豊かにするものと考えている。小さいときに体を動かすことが楽しいと感じた子どもは、大人になっても楽しもうという感覚でスポーツに向き合っている。幼児期からスポーツが楽しいと感じてもらえるような環境づくりが必要である。

【市長】

新年度、保育園や幼稚園の子どもたちに体を動かす楽しさを感じてもらうため、うんどう遊びアドバイザー派遣・育成事業に取り組むこととしている。この事業は、子どもたちに楽しんでもらえることはもとより、先生方が子どもたちにうんどう遊びを上手に教えることができるようにすることも目的としている。

【森委員】

休日の運動部活動の地域移行を行うことで、子どもたちがスポーツから離れていくことがないように、子どもたちのことを第一に考えた体制づくりを行っていただきたい。

【市長】

部活動の地域移行は、大変難しい課題であり、他県、他市を見ても苦戦している所が多い。単独の学校ではやりたい部活動ができないことや、教員の働き方改革の視点も大事であるが、一番は、子どもたちのことを優先して部活動の地域移行に取り組んでいかなければならないと考えている。

【長尾委員】

北陸地域の教育委員の会合で、部活動の地域移行についてはこれから検討する市町村が多かったが、高岡市が先んじて地域移行の取り組みを進めることができたのは、拠点校方式をとったことだと思う。

【市長】

第2期スポーツ推進プランについて、委員からいただいた意見を踏まえ、現行の案を基本に進めていただきたいと考えるが、よいか。

【全委員】

異議なし。

【市長】

今後は、第4回高岡市スポーツ推進審議会での答申を経て、計画が策定されるスケジュールになっているので、しっかり進めていただきたい。

【教育長】

プランについては、毎年度、各事業がどう進捗し、どのような成果があったのかを見据えながら確実に前に進めてまいる。

3 報告事項

- ・ 学校再編の動向について

【長尾委員】

小中一貫教育は何のためにやるのか、と問われたときに、先輩をリスペクトするためだと答えている。小中一貫校には、小学校と中学校を廊下で区切っている所もあるが、そうではなく、図書室や理科室などを共有するなどして、先輩が勉強している姿などを日常的に見ることができるような学校になればいいと考える。

【市長】

児童・生徒の学校での交流は大変重要であると考えている。これから小中一貫校の学校を整備していく上で、動線部分なども含め、お互いに交流のできる学校になるよう努めていただければと思う。

【森委員】

学校の再編統合により、通学方法が変わってくると思うが、通学時間が長くなることについては、子ども以上に保護者が一番心配していることである。最近では、用水路への転落などの事故も起きており、不安に思っている。通学路交通安全プログラムによる通学路の危険箇所等の洗い出しは継続的に行っていただくとともに、先生と子どもたちが一緒に歩いて危険なところを確認していくこともしっかりやってもらいたい。

【市長】

新年度予算においては、用排水路にも目を向けて、セミハード対策に新たに組み込んでいきたいと考えている。また、保育園周辺道路の対策にも取り組んでいくこととしている。

【土田委員】

学校の整備が順調に進んでおり安心している。

富山市で行っている学校選択制を取り入れて、進学に焦点を絞ったり、地域で活躍できる人材を育成してはどうか。

【市長】

富山市で行っている学校選択制については、メリット・デメリットがあると思うので、高岡にとってよりよい環境となるよう、いろいろな可能性を模索していただければと思う。

【成瀬委員】

医療的ケアが必要な子どもと一緒に過ごせるようバリアフリーの設備を整えていくことは重要だと思うが、ソーシャルインクルージョンの理念（全ての人々を孤独や孤立、

排除や摩擦から援護し、健康で文化的な生活の実現につなげるよう、社会の構成員として包み支え合うという理念)のもと、学校で一緒に過ごしている子どもたちが、障がいがあっても一緒に過ごすことができるという教育をしていくことも大事である。

【市長】

障がいを持った方も仲間であり、一緒に学ぶことがバリアフリーとして大切な観点であると思う。単にバリアフリーの設備を整えることだけでなく、心のバリアフリーも高岡の教育の柱として進めていただければと思う。

【長尾委員】

学校再編によりスクールバスを運行することは、子どもたちから毎日歩き、成長していくことを失わせることになる。このような損失があることも知っておいた方がよい。

【市長】

スクールバスを運行することにより、失われるものがあることは、保護者などはなかなか意識しづらいと思う。今後、保護者とスクールバスの協議をする際には、スクールバスをどう運行するかではなく、スクールバスが必要な理由や、スクールバスでどこまでできるのかについて、保護者としっかり話し合いを行っていただきたい。

【市長】

学校整備については、物価高騰の影響により事業費がどうなっていくか不透明な部分はあるが、物価スライドを意識して予算計上している。子どもたちの学びの環境を止めるわけにはいかないという決意のもと、市長部局においても進めていきたい。

現在、それぞれの開設準備会を設置し、進められているが、委員からも意見のあったスクールバス、部活動など懸案事項があると思うので、しっかり話を聞きながら地域の声、子どもたちの声が反映された学校にしていきたい。私自身も教育委員会と連携しながら対策を検討してまいる。